

50周年記念に寄せて



国土交通省中部地方整備局長
富田英治

中部地質調査業協会が創立50周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

皆様におかれましては、半世紀の永きにわたり地質調査技術の向上に努められ、中部地方の社会資本整備に多大な貢献をされてきたことに、深く感謝と敬意の念を表します。

50年前の昭和36年頃と現在を比較してみますと、国内総生産(GDP)は34倍、1世帯あたりの乗用車普及率は現在83%と当時の約30倍となっております。

一方、為替相場は1ドル360円から昨年10月には81円台と、この半世紀で私たちの暮らしや経済は大きな変化を遂げております。

中部地方の社会資本について、この十年を振り返ってみても、2005

年の愛・地球博の開催を契機とした「中部国際空港の開港」や「東海環状自動車道の開通」、「名古屋港飛島ふ頭南コンテナターミナルの竣工」、「徳山ダム of 竣工」、「新名神の一部開通」、「東海北陸自動車道の全線開通」など地域の活力と安全・安心の基盤となる社会資本の整備が着実に進められております。

これらの社会資本の整備や維持管理には、複雑かつ脆弱な地盤条件の我が国において、地質、土質、基礎地盤、地下水など「地下の不可視部分」について、その「形」、「質」、「量」を適格に把握することが必要不可欠であり、地質調査の品質は、「社会資本の質」そのものに大きく影響を与える重要な領域であります。

我が国は今、大きな転換期を迎え

ており、厳しい財政状況の下、人口減少や少子高齢化は社会のあらゆる面に影響しており、社会経済全体から個人の生活や意識に至るまで、様々な変化が生じるなど、これまで経験したことがない事態に直面しております。

中部地方整備局といたしましても、皆様方とともに安全で安心な魅力ある地域づくりを目指し、諸施策に取り組んで参りたいと考えておりますので引き続き、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、貴協会会員の皆様方のさらなる発展と会員各位のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

祝

辞

創立50周年をお祝いして



公益社団法人地盤工学会 中部支部長
岩立忠夫

このたび、中部地質調査業協会が創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

中部地域は、東海地震、東南海・南海地震という大規模地震が高い確率で発生する可能性があり、地質的には、土砂災害が発生しやすい山岳地帯が広く分布、また、多くの活断層が存在していることに加え、我が国製造業が集積する濃尾平野は軟弱地盤が広がっております。

地震、水害、地滑りなどの自然災害に対する安全・安心な社会づくりは、我が国にとって重要な課題ですが、その際、中部地域の地質に関して50年にわたり蓄積された知見を有し、技術力向上にたゆまぬ研鑽を積み、かつ社会のニーズを踏まえた技術開発を促進されている中部地質調査業協会会員が果たす役割は極めて大きいものがあると考えています。

貴協会におかれましては、技術力向上を目的としたフォーラムや報告

会の精力的な開催に加え、資格取得推進も行われており、これらの活動は地質に係る人材育成に大きく寄与、ひいては安全・安心な国土づくりに多大な貢献をしているものであり、深く敬意を表するものであります。

また、当学会が行うシンポジウム等の実施にあたっては、貴協会の多大なる御協力をいただいております。感謝申し上げます。貴協会との連携により、当学会の活動も机上の空論とならず、実践と理論が有機的に融合し、双方にとって大きな成果を生み出すものとなっております。例えば、「地盤工学に関するセミナー」の講習会（現場編）では、実際のボーリング作業等を見学しながら専門の技術者による解説を受けることができるため、参加者からは理解度が深まるとの高い評価を得ており、貴協会及び会員各社の活動・ノウハウあつての学会であると改めて認識するものであります。

地形、地質、気象条件などから見て

災害に弱い国土となっている我が国にとっては、広範かつ緻密な防災対策が必要不可欠ですが、その際、生活の基盤である大地の特性、情報を確実かつ適切に取得、分析される貴協会及び会員各社が果たす役割は今後とも不変です。

中部地域においては、今後の持続的発展に向け、ものづくりの拠点としての産業競争力強化や災害に強い地域づくりのためのプロジェクトが進められますが、併せて社会資本ストックの戦略的な維持管理も求められ、これらを的確に遂行していくためにも、貴協会の重要性が高まることは確実であり、その活動が大きな社会貢献に結びつくことを期待いたしております。

最後に、この半世紀の貴協会並びに会員の皆様方の活動に改めて敬意を表すると共に、今後の益々のご発展を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





50周年記念に寄せて

社団法人全国地質調査業協会連合会
会長 瀬古一郎



この度は中部地質調査業協会が創立50周年を迎え、本記念特集号も発刊され、まことにおめでとうございます。貴協会はこれまで「安全・安心な地域」や「元気な中部」をモットーに、地質調査を通して社会資本整備に貢献されてきました。これも偏に伊藤理事長、歴代の理事長、役員、会員の皆様方のご尽力の賜物と心から敬意を表する次第です。また、日頃は当連合会の様々の活動にご協力を頂いており厚く御礼を申し上げます。

貴協会が創立された昭和36年当時は高度経済成長が始まった頃で、その後数多の社会資本が整備され、今日私たちは「豊かさ」を享受する時代を迎えました。しかし、国土の脆弱性が改善したかというそうではありません。中部地方では東海地震

や東南海地震がいつ発生しても不思議はなく、洪水・土砂災害は頻発しゲリラ豪雨も加わり、津波・火山噴火などの懸念もあり、自然災害の危険性はむしろ増しているといえます。

一方、そうした日本の地象と気象とが相まって山紫水明といわれる自然景観を造り出し、多様な生物群を生み出し、人々の暮らしを育み、地域々々の歴史や文化を醸成してきました。こうした地域性の基となる地質遺産を保全・活用しようとする動きがジオパークです。中部地方でも多くの地域がジオパークとしての可能性を秘めており、地質関係の知見を地域振興や観光振興のために活用する新たな機会となります。地域毎に固有の地形・地質が源にあり、河川・砂防などの防災事業や交通基盤整備・街づくりなどの社会資本を重

ね合わせていくことによって、豊かさが結実していくと思います。

今、新たな公共が模索され公共事業の仕組みも変わりつつありますが、私たちの暮らしは災害と隣り合わせであり、今後も地質調査を通し地質リスクを的確に判定し社会資本整備に役立てていくことが不可欠です。中部地方における持続可能な安全・安心そして元気のためにも、中部地質調査業協会が中心となって技術の蓄積・向上・継承を推進していかなければならないと思います。この50周年を節目として貴協会の活動がますます活発になり、会員の皆様が発展していくことを祈念して祝辞といたします。まことにおめでとうございます。

中部における国土の安心・安全に 継続して貢献を



中部土質試験協同組合
理事長 加藤 辰昭

中部地質調査業協会が創立50周年を迎えられるとともに、併せて土と岩「創立50周年記念」特集号を発刊されることに心からお祝い申し上げます。また、地質調査業の草創期から現在に至るまでのたゆまぬ努力と活動を通じて、中部地域の国土整備に多大な貢献をなされていることに深く敬意を表します。

私ども中部土質試験協同組合（ジオ・ラボ中部）は、1979年12月に中部地質調査業協会の会員25社で設立され、2004年には現在の守山区に統合移転するなど、貴協会会員の皆様のお陰で昨年度30周年を迎えることができました。ジオ・ラボ中部では、地盤調査業務の内、「地盤材料試験の共同化」を主とし、「資材の共同購買」を副として、設備機器の拡充と試験技術の研鑽に努め、高品質の地盤材料試験結果を効率的・経済的にお届けして参りました。今では、産学官をはじめとして、中部圏随一の地盤材料試験所として、高い評

価と信頼を頂いておりますことも、貴協会会員の皆様からのご愛顧があつてのこととこの紙面をお借りして、深くお礼を申し上げたいと思います。

近年の公共投資は、1991年のバブル崩壊以後継続的に減少し、2008年のリーマンショックを発端とする世界同時不況に対し、削減も一時下げ止まりを見せたものの、政権交代もあって、2010年度は前年度予算比で-18%と大きく縮減されています。建設関連産業である地質調査業は、このような政府建設投資に大きな影響を受けて、20年近くも市場の縮減傾向が継続しています。

しかしながら、我が国の国土はその複雑な地盤ゆえに脆弱とされています。特に中部地域は差し迫る東海地震、東南海地震、南海地震の再来が懸念され、伊勢湾台風や東海豪雨のように地球温暖化・気象環境変化などがもたらす自然災害に対して、被災地域の早期復興が求められて

います。このように、中部における国土の安心・安全に貢献していくためにも、貴協会の役割は従来にも増して重要と考えています。

一方、縮減傾向が継続する建設環境のなかで、地質調査業就業者の高齢化も大きな課題として現実味を帯びてきています。若手技術者の育成、従来技術の伝承などを目途とした中部ミニ・フォーラムなどの今後の益々の発展を願ってやみません。

貴協会は、2008年度の地盤工学会中部支部の事務局を円滑に運営されるなど、他地域に先行する産学官の連携をより強固にすることで、技術者にとって希望のもてる中部の21世紀を構築していただきたいと願っています。及ばずながら、ジオ・ラボ中部も皆様を通して、産学官の連携、国土保全を支援していきたいと考えます。最後になりましたが、創立100周年に向かう貴協会の健全なご発展を祈念してお祝いの言葉と致します。

